

公益社団法人水戸青年会議所

2022年度理事長所信

公益社団法人水戸青年会議所
第70代 理事長 浅川宗典

スローガン

「挑戦と創造」

基本理念

変化を恐れず挑戦する
行動力ある人財による
魅力ある水戸の創造

基本方針

- 1・誇りを胸にまちの未来をつくる
- 2・時代の変化に的確に対応できる人財育成
- 3・魅力溢れる未来の実現
- 4・ブランド戦略による必要とされる組織へ
- 5・まちの未来を想像した全メンバーによる会員拡大
- 6・永続的に地域を牽引する組織

【はじめに】

2020年人類にとって戦後最大の脅威となった新型コロナウイルス感染症により世界規模の社会的危機が今も続いています。インバウンド需要の消失や外出自粛による個人消費の落ち込みにより国内経済に深刻な打撃を与え、私たちの生活にも大きな影響を及ぼしています。一方で、各地で起こる大規模災害の脅威と不安は100年に一度のものではなく毎年起こる災害へと変化をしています。誰も体験したことのない未知の世界で不安と期待が入り混じる今こそ、戦後の経済復興を果たした青年会議所の創始の精神に立ち返り、青年経済人である私たちが地域のリーダーとなり、新しい未来を創りましょう。

「我々青年はあらゆる機会をとらえて互いに団結し自らの修練に努めなければならぬと信ずる」

今から70年も前に創られた水戸青年会議所の設立趣意書に記載されている一文です。つまり、自ら学ばなければ成長はないということです。まず私たち一人ひとりが変化を恐れず行動する。その行動は必ず周囲へ影響を与え、市民を、そしてまちを動かすことができます。私たちの先達たちも窮地に立たされた時、自らの利ではなく「ひと」のため「地域」のために懸命に行動し、JAYCEEとしてのあるべき姿を示し続けてくれました。今まさに私たちが志と覚悟を持ち先頭に立って行動を起こし、プラスのスパイラルを地域に起こし挑戦をする時です。

本年度、水戸青年会議所は創立70周年を迎えます。過去を見つめ直し、新たな水戸青年会議所の運動を確立する絶好の機会です。地域に必要とされる、オンリーワンの団体であり続けるために、新しい時代を創るのは私たちだという思いを持ち、まちの化学反応を起こすべく、メンバー一丸となって新たな青年会議所運動を展開していきましょう。

「思い」はやがて「言葉」になり

「言葉」はやがて「行動」を伴い

「行動」はやがて「共感」を生み

「共感」はやがて「未来」をつくる

全ての未来は自らの思いから始まる

【市民が誇りに想えるまちづくり】

青年会議所が目指すまちづくりとは、まちを誇りに感じる人を一人でも多く増やすことです。その為には、まず知ること、好きになること、そしてまちに自信を持つことです。まちの景色や環境は変化をし、物事が便利になり価値観も多様化する中で、水戸青年会議所のまちづくりも時代に合わせた新しい「挑戦」が必要なかもしれない。行政や他団体とパートナーシップを組み、地域のリーダー団体としてあるべき姿を示し、まちの活性化に一石を投じなければいけません。小さな変化だとしても、その積み重ねが大きくなるとなり、まちに化学反応を起こします。水戸の魅力とは何か。歴史、自然、文化があり無限の可能性を秘め多くの資源を保有していることが挙げられます。この現在ある資源を生かし、資源同士の融合、資源と市民の融合、そして市民同士の融合をすることで、新たな価値を創造し、水戸市をより一層魅力的なまちへ変化をさせます。70周年という節目だからこそ新しい挑戦をして地域の「ひと」や資源の魅力をさらに輝かせ価値を生み出し、市民が夢を抱けるまちづくりをしていきましょう。

災害が起こった際、迅速な対応を実現するためにも地域のつながりは不可欠です。地球全体での気候の変動はめまぐるしく、世界の平均気温はおよそ100年間で約0.78℃上昇しています。日本国内での豪雨発生件数も30年前より約1.4倍に増加しています（国土交通省）。災害は自分自身で身を守り自己防衛をしていかななくてはなりません。水戸青年会議所は、2020年に水戸市と地域で活動をする各団体と災害時の相互協力に関する包括協定を結びました。地域と信頼を深め、自助・共助・公助の精神のもと、市民とともに誰一人取り残さない防災・減災を推進し、安心して住み続けられるまちの未来へとつなげていきましょう。

【挑戦と感動のひとづくり】

日本は急速な情報化の中で、物質的な豊かさや利便性・効率性が優先され、人々の価値観や生活様式が多様化しています。インターネットやゲームの世界では感じることのできない、「ひと」との関わりの中でこそ得ることのできる感動体験が必要ではないでしょうか。事実、日本の子供たちは諸外国と比べて自尊感情が低く、将来へ夢や希望を持ちにくいと言われていています。予測困難なめまぐるしい変化の中にあっても、常に将来への夢や希望を持ち、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、お互いを思いやる心で生きる力を育むことによって、子供たちの未来を希望あるものにしていきましょう。

47回目を迎える水戸青年会議所が長きにわたり続けてきた交通安全啓蒙活動を旗印にした「ちびっ子広場」も、いまの時代に沿っているものなのか考える必要があります。少子高齢化の時代に子供たちだけが学ぶのではなく、大人も学ばなければいけません。新しい取り組みに「挑戦」をして化学反応を起こしていきましょう。

【地域を牽引するリーダー育成】

水戸青年会議所が脈々と受け継いできたひとつづくりの精神は、70年目を迎える今でも私たちの魂として宿り続けています。時代は急速に変化している今「ひとつづくり」のプロセスは大きな転機を迎えています。手法こそ時代に合わせ変化をしてきましたが、その中でも非効率といわれるほどのメンバー同士が顔と顔を合わせ時間を共有する修練こそが、ひとつづくりの本質であり真のリーダーとしての成長に結びつくことに変わりはありません。年齢も立場も、育ってきた環境も異なる会員同士が議論を重ねぶつかり合いながら、同じ目的に向かって切磋琢磨し、長い時間を共に過ごす中で融合していきます。そこで化学反応が起こり、計り知れない大きなエネルギーを生み真の友情を培い、同時にまちのために活動できる人財へと成長を促します。こうして人と接することで醸成されたリーダーシップは、必ずや地域の発展にそして自らの社業にも、欠かすことのできない財産となるはずです。私たちは、成長を期待して、送り出してくれる会社や家族に対して、確かな成果でこたえなければなりません。水戸青年会議所には様々なものに挑戦ができ、成功も失敗も体験できるハードルが無限に存在します。そのハードルを乗り越えた時、成長した自分に出会えるでしょう。

【70年の歴史と想いを引き継ぎ、新たな一步を踏み出そう】

1953年11月、戦後荒野で、明るい豊かな社会を実現するために立ち上がった有志により、勇気と情熱の炎が灯されてから70年。これまで多くの先輩諸兄姉が、この水戸で不可能と思われてきたことを、その情熱と使命感で実現してこられました。しかし、活動歴の浅いメンバーも増加する中で、これまでの歴史を学び伝える機会は減少しています。70年目の節目に過去から学び、そこに現在の価値を融合し、新しい未来を創り出さなければなりません。単なる過去の延長に明るい未来はありません。不易と流行を意識し、変革の時代に必要なものを見極める目と、変革を恐れず大胆に行動する勇気が必要です。水戸青年会議所が80年、そして100年と、まちをリードし、今まで以上に地域から必要とされる団体として、新たな道しるべを打ちだしましょう。そして創立70周年を迎える本年、水戸のまちに大きな軌跡とインパクトを与えられる事業が必要です。今こそ水戸に必要とされるものを見極め、それを具現化すべく、メンバー一丸となって、水戸の地に大輪の花を咲かせましょう。

【地域の未来のために】

私たちはこれまでも、創始の精神を受け継ぎながら多くの情熱を注ぎ、まちの未来を考え運動を展開してきました。2016年に第29回国際アカデミーを水戸の地で開催して多くの市民にインパクトを与えました。2021年には、第69回関東地区大会水戸大会を主管し、本年度を迎えます。青年会議所の魅力として、国際の機会に触れることができます。世界中に広がるこのJCIネットワークは、異なる国の人々と交流をして様々な文化に触れることで、この国やまちの有難さを改めて実感し、様々なことを考える機会を提供してくれます。国際の機会に触れることが、国やまちの魅力をより強く感じさせ、地域の発展へと

繋がっていきます。青年会議所に所属をするなら積極的に関わっていくことが必要です。そして市民の方々にもこのような機会を創出していかなくてはなりません。新型コロナウイルス感染症によりインバウンド需要の消失が日本中で起こっているいまだからこそ、地域を牽引する団体としてこのまちが持つ可能性を最大限に引き出し、多様な魅力あふれる国際都市水戸を目指していきましょう。

【将来を見据えた戦略的な会員拡大】

水戸青年会議所を支えるもの。それは間違いなく「ひと」であり、私たち自身です。近年、会員数は減少傾向にあり全盛期の3分の1となり、平均在籍年数も少なくなってきました。何のためにメンバーを増やすのかを明確にしなければなりません。会員拡大の目的は、ただ単に組織を大きくすることではなく、まちづくりに貢献できる人財や地域を牽引する「リーダー」を増やすことです。そう考えた時、会員拡大はだれが行うものではなく、まちづくりを行う団体である我々メンバー全員が取り組む、LOM最大の活動です。そのために、個々のパフォーマンスだけでなく、水戸青年会議所の存在意義をメンバー全員が考え、それを全員で共有する仕組みが必要です。入会したメリットは我々がいちばん感じているはず。青年会議所しかなかった時代から青年会議所もある時代になりました。地域を牽引する団体となるために、将来を見据えた会員拡大を全員で行っていきましょう。

【地域を牽引する組織】

先行きが不透明な時代の中、社会から取り残されることなく常にオンリーワンの団体であり続けるために、組織を内側から見直し改善を進めることが必要です。新しい生活様式だからこそ原点を再確認し、甘えることなく地域から信頼される組織であり続けたい。公益社団法人格である団体として社会的信用と信頼にこたえるために、時代の流れを読みながら法令やルールを、メンバーが理解し、自主的に徹底した統制を行わなければいけません。持続可能な団体へと成長するために、メンバーからの会費など貴重な財源を効果的に使えるよう透明性と公平性のある堅実な財務運営を心掛けることが必要です。そして、規則を守ることはもちろん大事ですが、時代に即したものに更新していくことが必要です。そうすることで、制限を取り除き事業の最適化や運営の自由度が高められ、時代に即した活動ができる団体となります。水戸青年会議所の活動が永続的に継続していくために、信頼のある組織運営をしていきましょう。

【価値を高めるブランディング戦略】

青年会議所は市民から見て魅力ある団体でしょうか。地域では社会奉仕団体や青年団体など多岐にわたる団体が多く存在しています。青年会議所の独自性、魅力、発信力を高めるために広報活動にも力を注いでいきましょう。SNSや動画などのWebでの情報発信も当たり前の時代です。社会に提供される情報量はSNS活用により飛躍的に増えている中

で、変化のない単一的な情報発信では、他の情報に埋もれてしまうし、受け流されてしまうのが現状です。新しい手法と従来どおりの媒体にも同時に力を入れて発信し、市民に何を伝えたいかを明確にし、水戸青年会議所の価値を高める、熱い想いと、しっかりとした戦略をもってブランディングを進め、市民から必要とされる団体にしていきましょう。

【交流と出向は自ら手に入れられる機会】

水戸青年会議所は、2017年に台湾にある嘉義国際青年商會と姉妹締結をして5年が経ちました。先輩諸兄姉が長年培ってきた友情を紡ぎ、社会性や国際性を身に付け、それぞれの組織の取り組みへの理解を深めて違いを学び、互いに刺激し合うことでより良い事業構築へと活かせるように交流を深めていきましょう。

今年度も多くのメンバーが水戸青年会議所から出向します。出向先には、様々な運動展開がありLOMの想いや未来を背負った志高いメンバーが集まっています。熱い想いを持ったメンバーと共に自身の可能性へと挑戦する経験は、必ずや人生を大きく変えるものとなります。水戸青年会議所のメンバー一人ひとりが、出向者に心を寄せて全力で出向者支援を行っていきましょう。

【終わりに】

「ひと」と「ひと」のめぐり逢いは運命であり、自ら動き掴みにいくことで良きひとと出会い、理想とする人間関係ができる。青年同士の交流は、かけがえのない思い出となる輝かしい時間（とき）です。青年会議所しかなかった時代から青年会議所もある時代へと変化を遂げ、各地の青年たちは様々な団体に所属し、活動をしています。しかし、青年会議所では出来ないものもたくさんあると信じています。奉仕・修練・友情の三信条は唯一無二のものである。英知と勇氣と情熱をもった仲間たちが過去にも現在も、そして未来にも数多く存在しているはずです。時には辛いことや悲しいこともあります。互いを信じて切磋琢磨し、一つのことを成し遂げた時の喜びや達成感、そしてそこで生まれる絆は永遠のものです。地域のリーダーとなるために、常に物事を「プラス」に捉え、「おもてなしのこころ」を持ち、一人ひとりが挑戦し、光り輝く地域を創造していきましょう。

新しい時代に変えられるのではなく

新しい時代に向けて自ら変わり続ける

そして新しい時代を創り続けたい